

QST病院で膵臓癌に対し重粒子線治療を受けた皆様へ

（臨床研究に関する情報）

QST病院では、放射線がん治療に伴う放射線組織障害に対して、組織修復を担う幹細胞“ミューズ細胞”を用いた再生治療法の確立を目指しています。その前段階として、この度、膵臓癌患者さんの血液中の“スフィンゴシン-1-リン酸（S1P）”（ミューズ細胞誘導因子）の発現について解析することになりました。この研究は、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」により、対象となる患者さんのお一人ずつに直接説明を行った上で同意をいただく代わりに、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先：窓口」へご照会ください。

もし、詳しいことをお知りになりたい場合には、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲で、より詳しい計画書や関連資料を閲覧いただくことができます。また、個人情報保護法に基づく開示・利用停止等の手続き等を希望される場合にはお申し出ください。ご自分のデータの使用をお断りになっても、不利益を受けることはありません。

【研究課題名】膵臓癌患者における血中スフィンゴシン-1-リン酸（S1P）とミューズ細胞の後向き観察研究

【研究機関】量子科学技術研究開発機構 放射線医学研究所およびQST病院

【研究期間】許可日～2025年12月31日

【研究責任者】三浦 太一

【研究の目的】膵臓癌患者さんのうち、先行化学療法を受けていない方と、先行化学療法を受けたことのある方における、血漿中S1P※濃度を評価し、先行治療の有無（化学療法による組織の障害の有無）によって血漿S1Pの濃度に違いがあるのかどうかを明らかにします。※S1P：ミューズ細胞を傷害組織に誘導する因子

【研究の方法】

●対象となる方々

QST病院にて膵臓癌に対する重粒子線治療を実施した方のうち、メディカルデータバンク（※）を通しての試料・情報の研究利用に同意をいただいた方

※既に倫理審査委員会で承認を得て、患者さんの血液試料を提供いただいている計画（研究計画書番号14-036）です。

●利用する試料・情報及び利用方法

治療内容（先行化学治療の有無）、カルテに記録されている治療前後の経過、血液（血漿）を利用します。血液試料はS1P濃度分析に利用し、分析は民間企業に委託します。

新たな質問や検査はありません。

【個人情報の取り扱い】 **お名前や個人情報が出ることは、一切ありません。**

利用する情報からは、お名前、ご住所など、個人を直接同定できる情報は削除します。また、研究成果は、解析した全体の数字として学会や学術雑誌で発表されますが、その際に個人名などが表に出ることはありません。（研究機関の個人情報保護に関する規則等に従い、資料の保管管理及び利用等に関する措置を行います。）

[問い合わせ・苦情等の相談窓口]

千葉県千葉市稲毛区穴川4-9-1

QST病院メディカルデータバンク 同意・相談窓口

電話：043-206-3306（平日9:00 ～ 17:00）



[研究計画書や関連資料についての問い合わせ先]

千葉県千葉市稲毛区穴川4-9-1

放射線医学研究所

三浦 太一 電話：043-206-3072（平日9:00 ～ 17:00）